



社会系(地理歴史)カリキュラムデザイン論 プレゼン

「歴史」独立論の問題性-原理的考察-

プレゼン担当:4班

論文の構成

- 1, はじめに-「歴史」を社会科から独立させる動き
- 2, 再々構成された歴史の教授-実際に教授している歴史とは
- 3, 手段としての歴史-歴史を教授することは可能か?
- 4, 歴史による価値注入-歴史はなぜ教育力を持つのか?
- 5, 社会科歴史を-教師が歴史の授業を構成するために

1,はじめに

- 歴史独立論推進派の主張
- 歴史自体に大きな教育力が内在
- 社会科の枠で制約することで教育力弱体化
- 歴史は社会科から切り離すべき

しかし

- 歴史を社会科から独立させる問題点
- 教師による授業構成は科学的に根拠をもつ必要がある
- 社会科の枠を外すと極めて困難

テーマ

歴史教材構成の事実の分析から社会科歴史の必然性を明らかにしていく！

2, 再々構成された歴史の教授



図：歴史の類型と歴史授業構成の過程

フランス革命像

A-対象世界
B,D,F,H-主観的知識
C,E,G,I-客観的知識

乖離

A,フランス革命

B,革命直接の経験者が
見聞いたこと

C,後世に
伝えられた
史料

E,歴史学者
の論文・著書

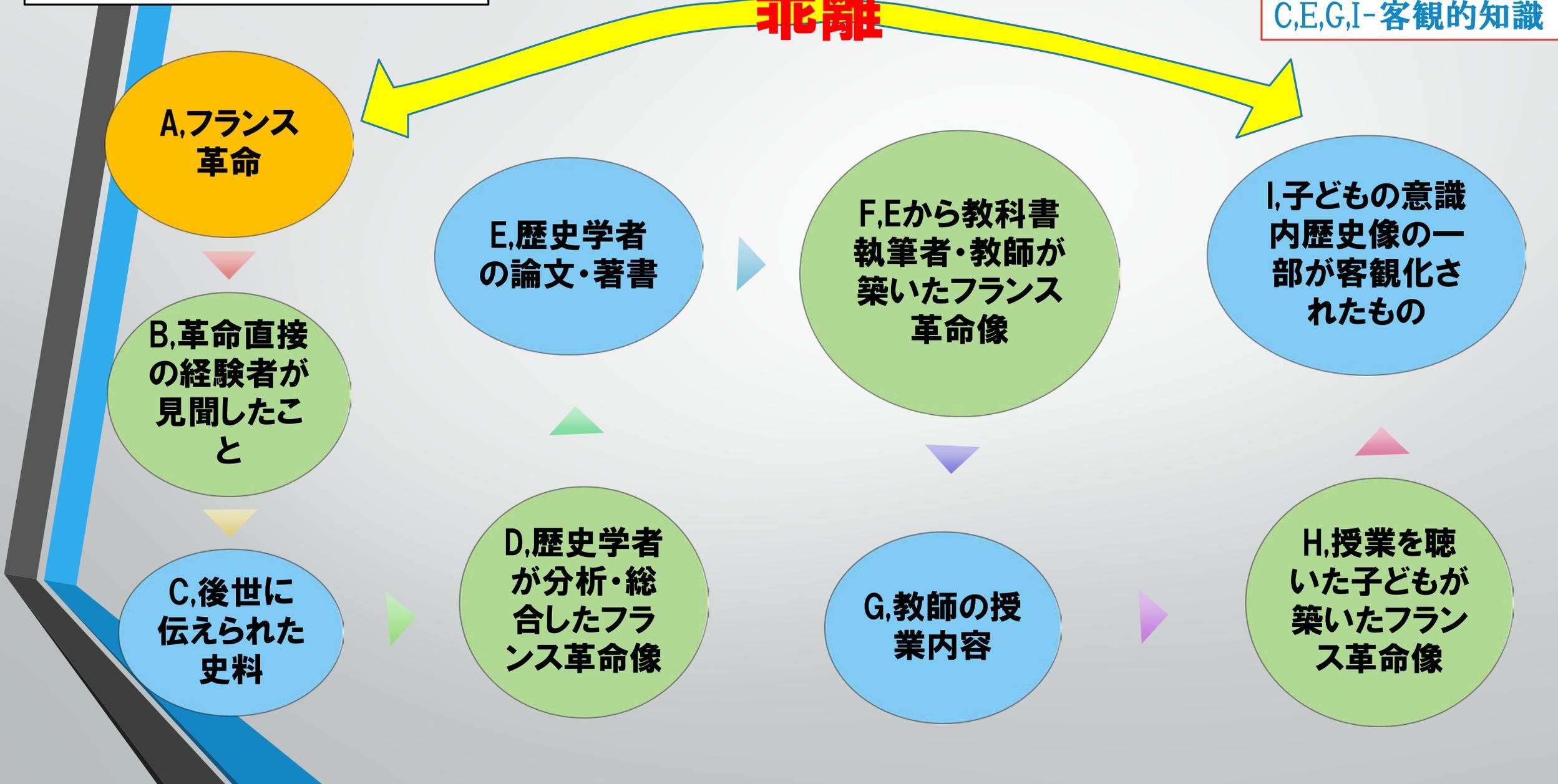
D,歴史学者
が分析・総
合したフラン
ス革命像

F,Eから教科書
執筆者・教師が
築いたフランス
革命像

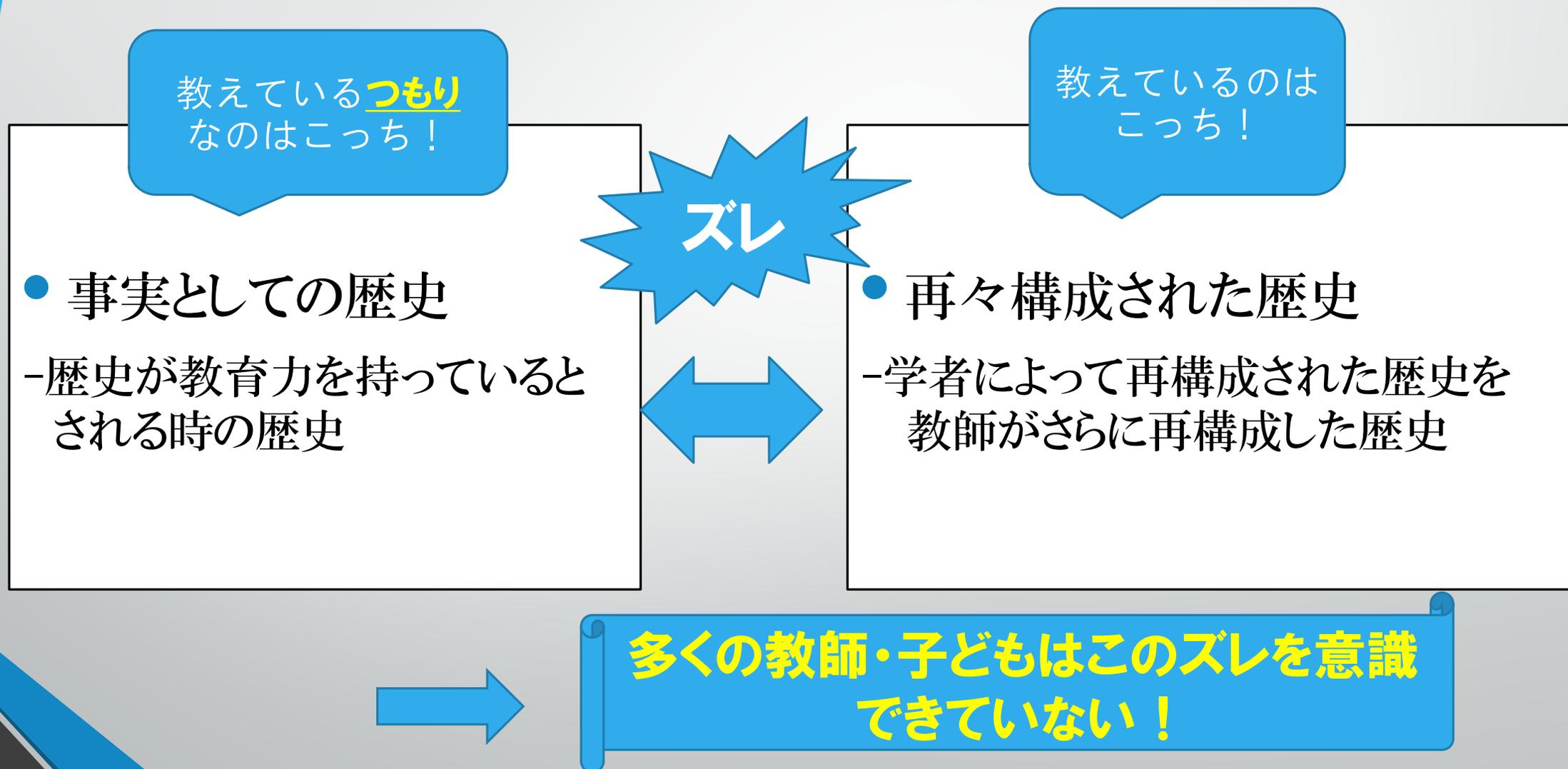
G,教師の授
業内容

I,子どもの意識
内歴史像の一部
が客観化さ
れたもの

H,授業を聴
いた子どもが
築いたフラン
ス革命像



2, 再々構成された歴史の教授



3,手段としての歴史

Q:歴史を教授することは可能か？

歴史学者の論文・著書に依拠することが一般的

歴史学者の論文・著書は時間的・空間的に限定されている

歴史の教授=歴史を限定し、選択して教授せざるを得ない

→ ~~A:歴史を教授~~ → 歴史で教授-目的のための手段

なぜ歴史科は歴史を教授するように思われ、 見えているのだろうか

- ・ 歴史学者の間にはある支配的なものの見方がある
- ・ これは社会構造や運動法則を解明しようとするもの



「社会の科学的認識」のための歴史研究となっている



学校、大学でもパラダイムを共有し、社会科歴史の授業構成の根拠を求め、基礎づけることができる

しかし!

社会科から独立すると歴史を限定、選択する
基準を失い、授業構成の根拠がなくなって
しまう

4,歴史による価値注入

基本的に誤った
考え方

Q:歴史はなぜ教育力を持つのか?

歴史独立論の立場

- 「歴史のための歴史」教育を主張

※歴史教育の目的:歴史はそれ自体が意味を持っており、その意味を理解すること

→そのために限定・選択し再構成する!

- 歴史の流れが持つ一定の方向性の重視

※歴史とは時系列的に前の事象が後の事象を規定していく巨大・複雑な構造的因果の連鎖

→この連鎖の流れが持つ一定の方向性が歴史の趨勢あるいは発展法則

A:歴史の意味がわれわれに生き方を示唆するから

歴史それ自体に意味はない



我々の生き方、決断が、事象に意義を与え、歴史に意味を付与する！

- ・ 歴史上の事実は無限
- ・ 我々の能力は有限

そのため

- ・ 歴史事象を理解し、説明する時、事実の選択は不可避

だから

- ・ 一つの視点・立場から歴史を切り取り、時代や全体像を描いてゆかざるをえない

ゆえに

- ・ **立場が異なれば描かれる歴史像は異なってくる！**

歴史独立論・通史教授の問題点

=一つの視点・立場から再構成された歴史を**事実**として教授すること



子どもは歴史の学習を通して、それと知らずに一つの生き方を学び取らされる!



**通史教授は価値注入
となる!**

5,社会科歴史を

Q:教師は何に依拠し、どのように授業を構成していけばよいのか？

● 歴史の限定・選択・再構成に価値は不可避
→通史教授は価値注入とならざるを得ない。

● 歴史は我々にとって社会を認識し、生き方を反省していく上で必須の手段・方法

歴史教育を科学的な歴史認識の方法に従って変えていく必要性

現代社会の認識・生き方

→歴史理解を発展

対話

歴史事象の認識

→現代社会の認識深化、生き方の反省

A:子どもたちの歴史研究を科学的研究の方法に基づいて援助すること



歴史を通して子どもに認識させるのは

「社会」

つまり、

歴史授業は基本的には**科学を基盤**に、すなわち、学問の世界における歴史研究の位置と機能に対応し、**歴史の学問的研究方法に依拠して構成**されなければならない。



歴史は社会科として構成される必要がある！

重要センテンス

- 1,教師による歴史授業構成は科学的に根拠を持つものでなければならない(p78、13行目)
- 2,教師が教授できる歴史は再々構成された歴史である(p81、20行目)
- 3,歴史の教授は歴史を限定し選択して教授せざるを得ない(p82、30行目)
- 4,我々の生き方、決断が、事象に意義を与え、歴史に意味を付与する(p85、24行目)
- 5,立場が異なれば描かれる歴史像は異なってくる(p86、4行目)
- 6,通史教授は価値注入となる(p86、10行目)
- 7,歴史を通して子どもに認識させるのは「社会」(p87、20行目)